女性の視点から防災を考える

だれもが安心・安全に暮らすために

過去の大規模災害では、避難所によって衛生用品などの生活必需品が不足したり、授乳や着替えの場所がなかったりといったことが見られました。このため、女性の視点から災害対策を見直す動きが全国的に広がっています。

市では、女性職員によるプロジェクトチーム「BJ☆Project（防災女性プロジェクト）」を発足させ、昨年12月に市の防災施策への提言をまとめました。これを参考に、幅広い視点で防災施策を見直します。

問☎334・1507危機管理課

もしものときを、違う立場で見直そう

家族や生活との関わりが強い女性の視点で防災対策を考え直すことは、高齢者や乳幼児、障害者や外国人など、災害時に要配慮者となる多様な人々への対策をとることにつながります。

また、防災は日ごろから助け合える関係づくりや地域の結びつきが重要です。男女双方の視点で意思決定や運営ができるよう、普段から自治（町）会や自主防災組織に女性の参画を進めていく必要があります。

BJ（防災女性）からの提言（抜粋）

「女性の視点」から「人として考える」へ

「女性の視点」とは具体的には何なのだろう、と最初は悩ましたが、避難所も生活の場であるので、生活者の目線で考えることが大切であり、突き詰めると、支援が必要な人にどう配慮するのかという「人間的な視点」に行き着きました。

性別や年齢など様々な立場の人が、自分のライフスタイルに合わせた備えを考えることが大切ですね。

▶BJリーダー　健康支援課　五十嵐 友子

▲12月26日に市長へ「市川市の防災施策に関する提言書」を手渡しました

提言① 防災まちづくり

●延焼火災の危険性を軽減させるため、**感震ブレーカー設置**を推奨すること

●子どもの防災意識向上を図るため**子どもが参加できる防災訓練**を実施すること

地域や家を守るために

地震・火災・水害といった災害を想定しながら、地域や家を守る対策を検討しました。ぜひ、減災マップや洪水ハザードマップを活用して、お住まいの地域を確認してください。あわせて、市の防災訓練などにも、もっとたくさんの人に参加してもらいたいと思います。

▶国民健康保険課　北原 仁美

提言② 備蓄

●**外国人用や乳幼児用、ペット同行避難用の備蓄品**の拡充を行うこと

●**備蓄食料の成分表**を避難者が確認しやすいようにすること

●**防災ポーチ**の啓発を行うこと…など

防災ポーチの勧め

いつどこで災害に見舞われるかわからないので、必要最低限度の物資を常に持ち運べる「防災ポーチ」の携帯をお勧めします。必要なものは人によって違うので、それぞれアレンジしてください。小袋で分けて収納するのが使いやすいですよ。

▶環境保全課　友光 晶子

▲BJが提案する防災ポーチ

内容（例）：ハンカチ、ウェットティッシュ、常備薬、飴（あめ）などの非常食、小銭、レジ袋、ゴム、生理用品や予備のコンタクトレンズ（必要な人）、笛、スマホ用充電器、携帯トイレ、カイロ、絆創膏（ばんそうこう）、小型ライト、油性マジックとメモ用紙、ミニ裁縫セットなど

提言③ 避難所

●避難所における**個々のニーズの早期発見**ができるような仕組みを構築すること

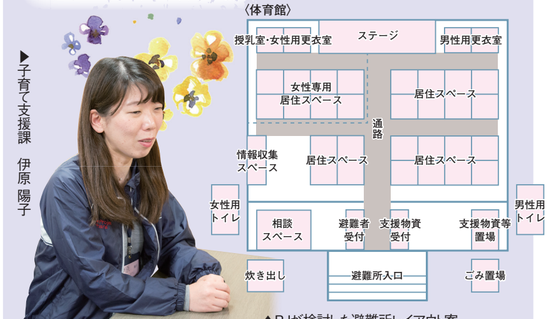
●避難所運営に係る組織には多様な意見を反映するため、男女両方を配置すること

●高齢者や障害者等の**使用が容易なトイレ（洋式便器）**を多く確保することを検討すること

…など

安心して過ごせる空間として

避難所は、限られた状況下で清潔さと安全性を確保しなくてはなりません。特にトイレは重要で、清掃当番の必要性や、安全のために外から見えないことや男女を分けること、できれば男女離れたところにある方がいいと考えました。また、岩沼市で被災者の話を聞き、配慮が必要な人が声を上げられる仕組みが必要だと感じたので、避難所に相談スペースやリクエストボックス、相談員の巡回などもあるといいと思います。



▲BJが検討した避難所レイアウト案

▶子育て支援課　伊原 陽子

市では、これらの提言を参考に市の防災体制を再検討し、地域防災計画や避難所運営マニュアルなどに活かしていきます。

BJ☆Projectの提言詳細は市公式Webサイトをご覧ください。

防災女性、立ち上がる「BJ☆Project」とは

市の女性職員の中から公募により選ばれた20人が、年間を通じて体験学習や被災地見学、座学を実施しました。多様な視点から災害への備えや災害発生後の避難所運営、被災者支援のあり方、復旧対策などを検討し、防災まちづくり、備蓄、避難所運営の3項目を柱に、市長へ提言書を提出しました。

女性の参加は当たり前 これからにも期待

鬼高小学校区防災拠点協議会 委員長　稲垣 カツ さん

小学校区防災拠点協議会は、学校と連携しながら地域の協力により防災訓練などを行っています。ふだんの良好な関係がいざというときの力になるので、日ごろの声かけや顔合わせを大切にしています。男女を問わず若い人にもっと参加してもらいたいものです。

防災や自治会の活動は参加するのが当たり前で、女性の会長はまだ少数とはいえ、女性だから大変だと思ったことはありません。しかし、男女の目線の違いはやはりあると感じますし、特に乳幼児や要介護者への支援は大切なので、BJ☆Projectのような取り組みを今後も考えていただき、私たち市民に還元してもらいたいと思います。

1 旭市へ被災地視察
2 集団移転した岩沼市民との座談会
3 非常食の試食
4 段ボールベッドで避難所体験
5 防災学習体験施設「そなエリア東京」視察
6 グループ研究
7 自衛隊1日入隊で給水や野外給食を見学
8 ボートによる水難救助訓練
9 提言後、市長・副市長と共に

BJ☆Project 1年間の活動